

(21) 市への愛着について

問 28 あなたは、北九州市が好きですか。

N : 1,322 人

項目	回答数 (人)	割合 (%)
1 とても好きである	421	31.8
2 ある程度好きである	670	50.7
3 どちらとも言えない	148	11.2
4 あまり好きではない	49	3.7
5 まったく好きではない	10	0.8
無回答	24	1.8

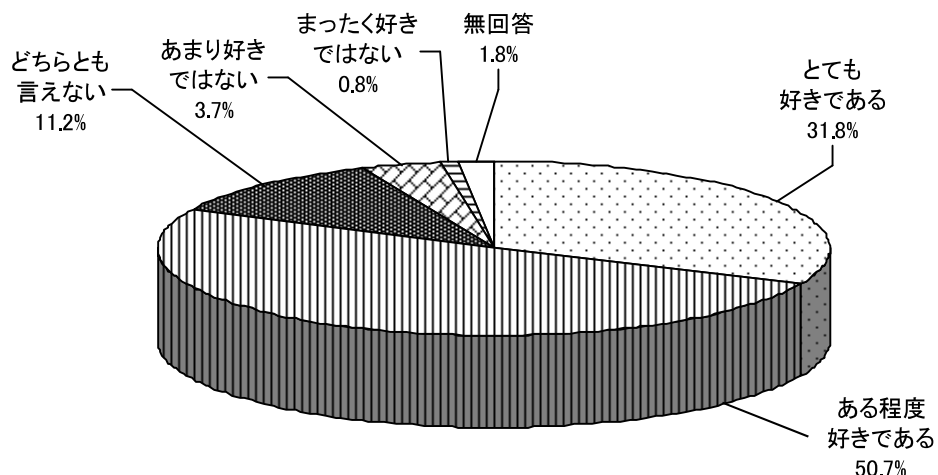
◇ 北九州市に愛着があるかについては、

・肯定層 82.5%

(「とても好きである」31.8%+「ある程度好きである」50.7%)

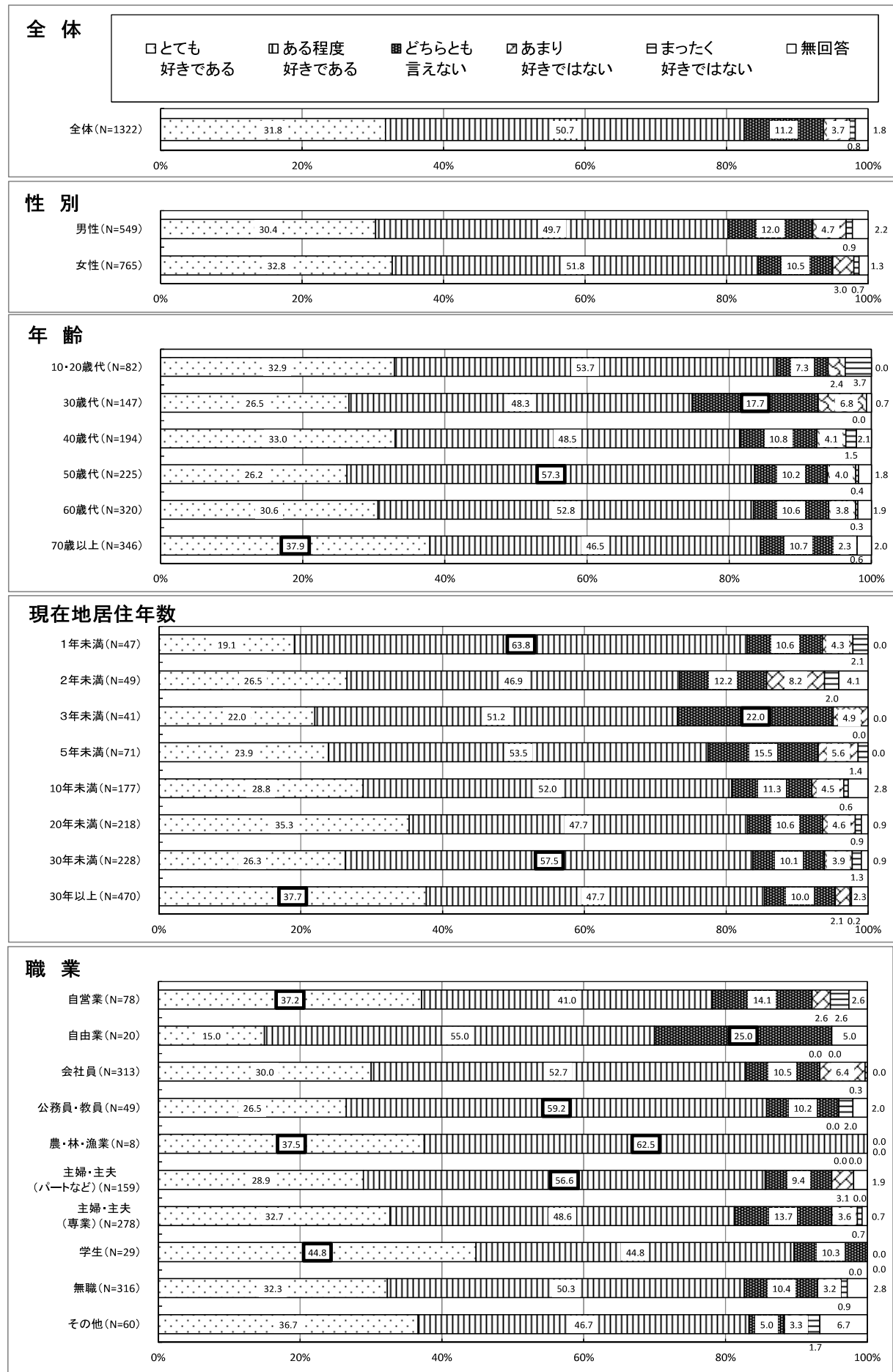
・否定層 4.5%

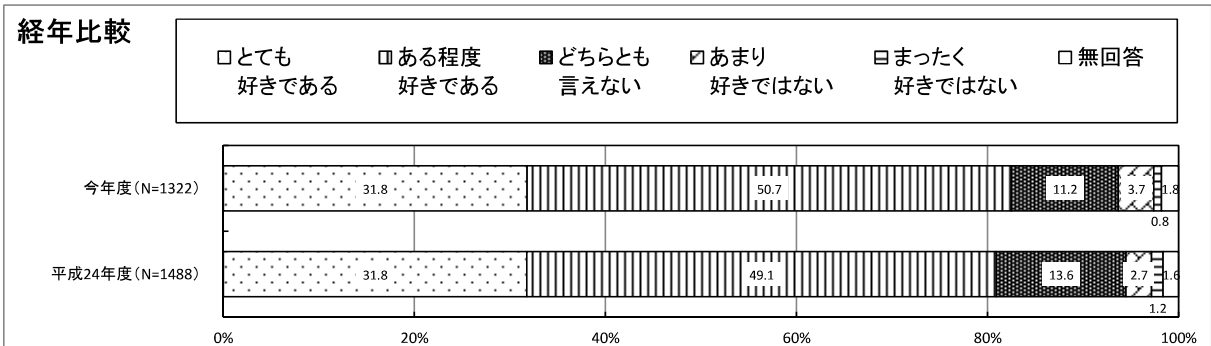
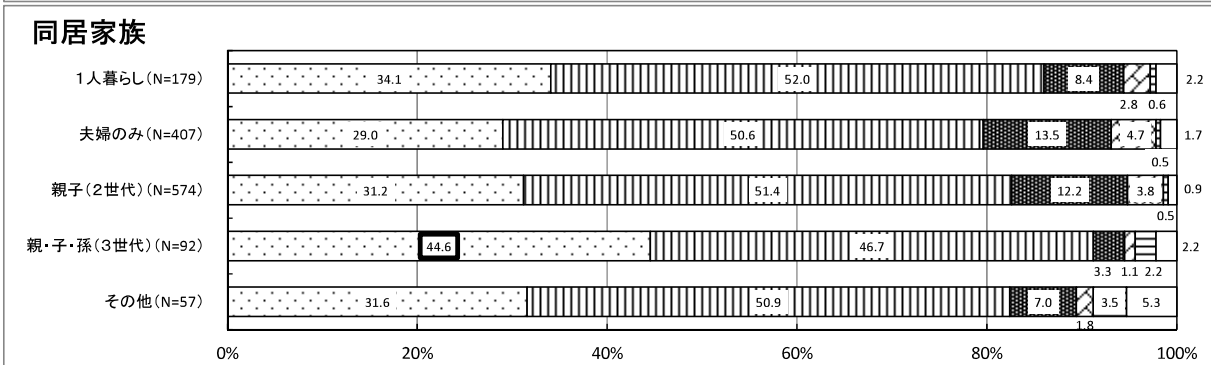
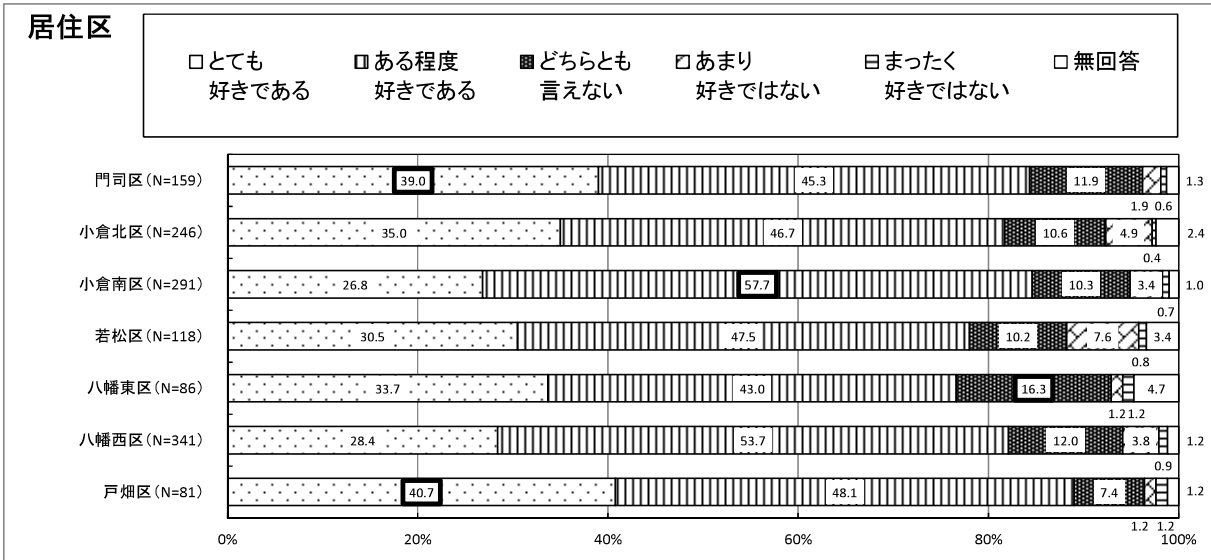
(「あまり好きではない」3.7%+「まったく好きではない」0.8%)



とても好きである   
 ある程度好きである   
 どちらとも言えない   
 あまり好きではない   
 まったく好きではない   
 無回答

# 市への愛着について





(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「その他」「無回答」は除く)

## 市への愛着について

### 【全体的傾向】

北九州市が好きかに対する、市民の愛着度をみると、「とても好きである」は31.8%、「ある程度好きである」は50.7%で合計すると、肯定層は82.5%である。一方、「あまり好きではない」は3.7%、「まったく好きではない」は0.8%、合計すると、否定層は4.5%である。

肯定層（82.5%）が否定層（4.5%）を78.0ポイントと非常に大きく上回っている。

### 【属性別にみた傾向】

- 居住区別にみると、肯定層は戸畑区（88.8%）で最も高く、八幡東区（76.7%）で最も低くなっている。

### 【経年比較】

今年度の調査結果を、平成24年度調査結果と比較したところ、肯定層は、平成24年度（80.9%）に対し、今年度（82.5%）にわずかに高くなった。否定層は、平成24年度（3.9%）に対し、今年度（4.5%）は、ほぼ横這いであった。

### 3 まとめ

以上、市政に対する評価をひとつずつ個別にみてきたが、今回のアンケート調査から、下表に示す 22 項目をまとめてみることにする。

問	略省表示	質問文の内容
問 2	子育て	安心して子育てができる
問 3	教育	子どもたちが、いきいきと学び、成長している
問 4	生涯学習	生涯学習にわたって自由に学び、成果を生かした活動を行う環境が整っている
問 5	コミュニティ	地域とのつながりの中で、安心して暮らせる
問 6	安全・安心	犯罪のない安全・安心なまちづくりへの取組が、以前と比べて進んでいる
問 7	高齢者	高齢者がいつまでもいきいきと自分らしく生活していける
問 8	人にやさしいまち	すべての市民がお互いを尊重し、安心して暮らすことができる
問 9	生活環境	住みやすい、住み続けたいと思えるような生活環境を有する
問 10	公共施設	道路、公園、建物などの公共施設を、安心して快適に利用できる
問 11	文化芸術	文化芸術に親しむ(見る、参加する)機会に恵まれている
問 12	スポーツ	スポーツに親しむ(見る、参加する)機会に恵まれている
問 13	市民活動	市民活動に参加しやすい環境が整っている
問 14	協働	自治会や町内会や、NPO、ボランティア、企業などと行政が協働してまちづくりを進めている
問 15	市民意見の反映	あなたの声が市に届き、きちんと対応されている
問 16	人材・就業支援	市が取り組んでいる人材育成・就業支援は十分である
問 17	魅力	市外からの来訪者に対して、自慢できるものがある
問 18	小倉都心	小倉都心ににぎわいを感じる
問 19	黒崎副都心	黒崎副都心ににぎわいを感じる
問 20	車移動利便性	市内の車での移動は便利である
問 21	公共交通機関	市内の公共交通機関での移動は便利である
問 23	環境への配慮	市や市民の環境に配慮した取り組みは自慢できる
問 24	自然環境	身近に自然を感じたり、身近な場所で自然に触れたりできる

次頁の散布図は、肯定層割合と否定層割合により、22 項目をポジショニングしたものである。

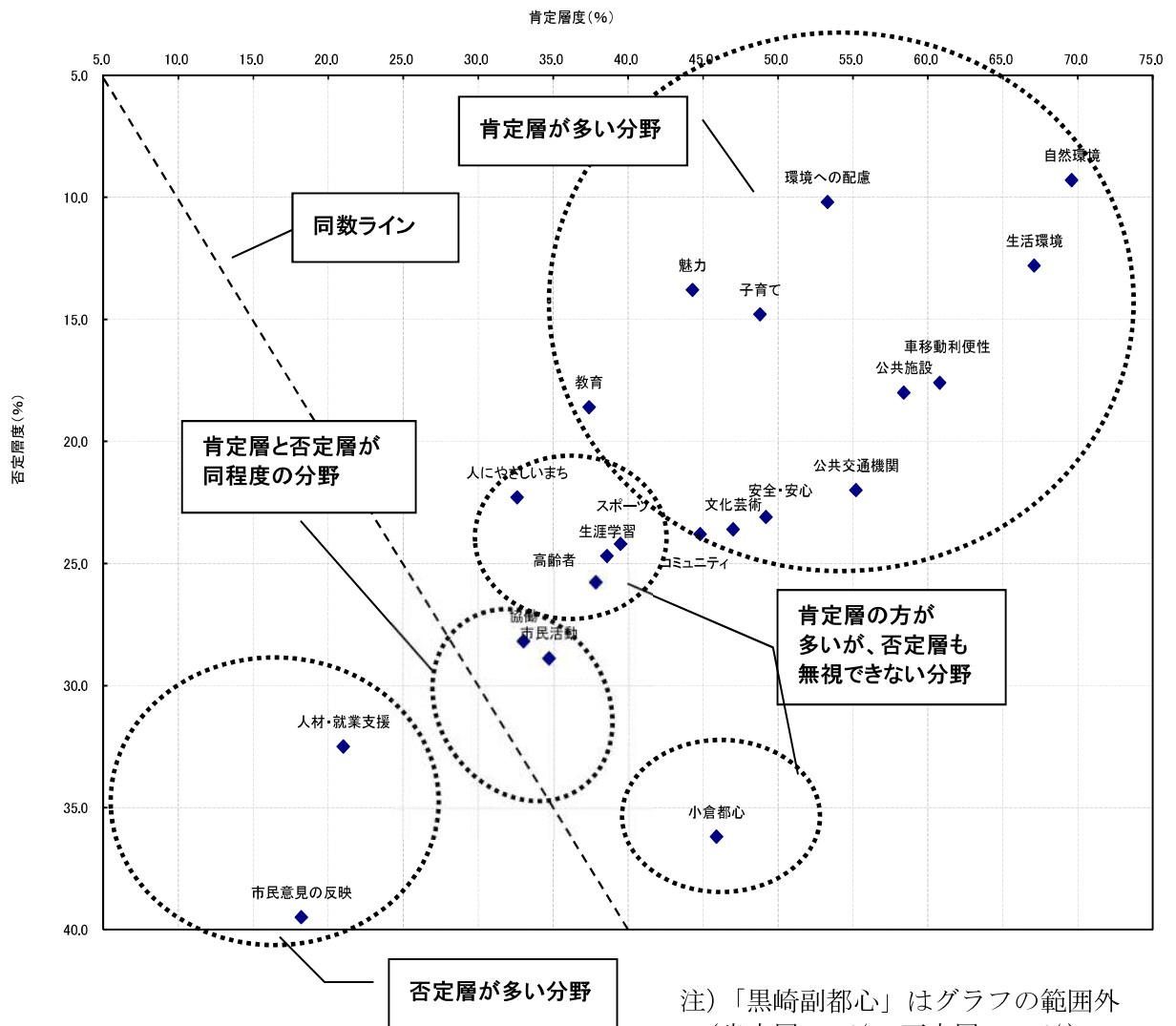
これをみると、身近に自然を感じたり、身近な場所で自然に触れたりできる自然環境や、市や市民の環境配慮、道路や公園などの公共施設、自動車への対応、バス、モノレールなどの公共交通機関など、都市のインフラ等に対する評価や、環境の取り組みは肯定層が圧倒的に多い。また、子育て支援や市の魅力も高く評価されており、それらを背景に今後の居住意向も強くなっており、全体的には北九州市に対する評価は高いものとなっている。

ただ、市民の声の市政などへの反映や、人材・就業支援、黒崎副都心のにぎわいに対しては、否定層が大きく上回っている。

肯定層と否定層が拮抗している分野は、市民活動(市民活動に参加しやすい環境が整っている)や協働(自治会や町内会や NPO、ボランティア、企業などと行政が協働してまちづくりを進めている)といった市民活動に関する分野であった。

これらの分野は、市民のまちづくりへの参加推進といった観点も含め、今後どのように推進していくかの方向性が市民から問われている分野とも考えられる。

## ■ 肯定層と否定層のポジショニング ■



次に、年齢別、居住区別に肯定層の割合をレーダーチャートでしめし、それぞれの属性別の特徴をみてる。

全体では、市民意見の反映や人材・就業支援などで肯定層の割合が低いことから、凹んだ形となっている。

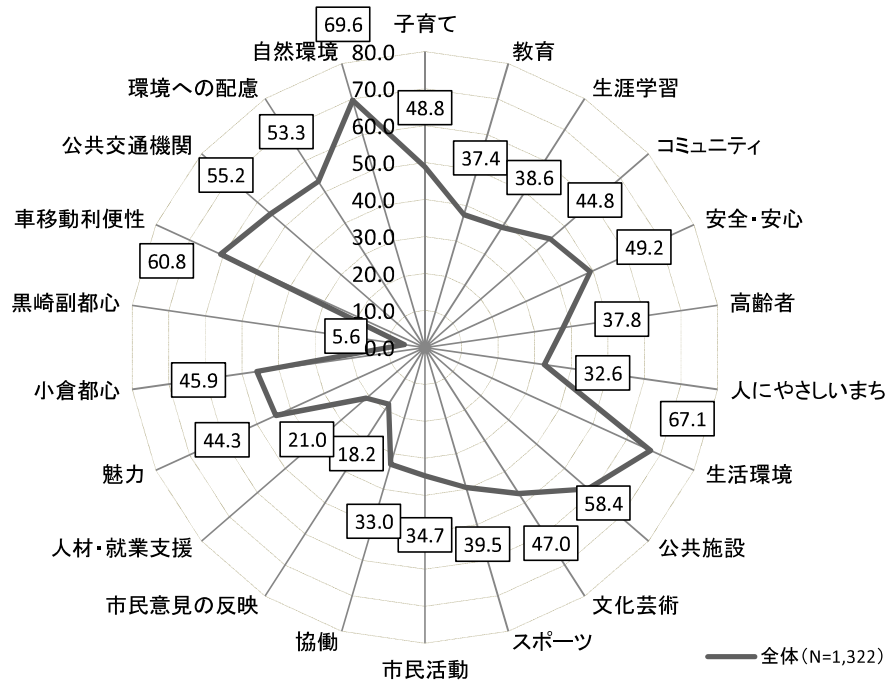
これを、性別にみると、グラフ形は男女ともほぼ同じであることから、性別による差はあまり大きくないことがわかる。

これに対して、次ページ以降に示す年齢別、居住区別のグラフではかなり差がある。

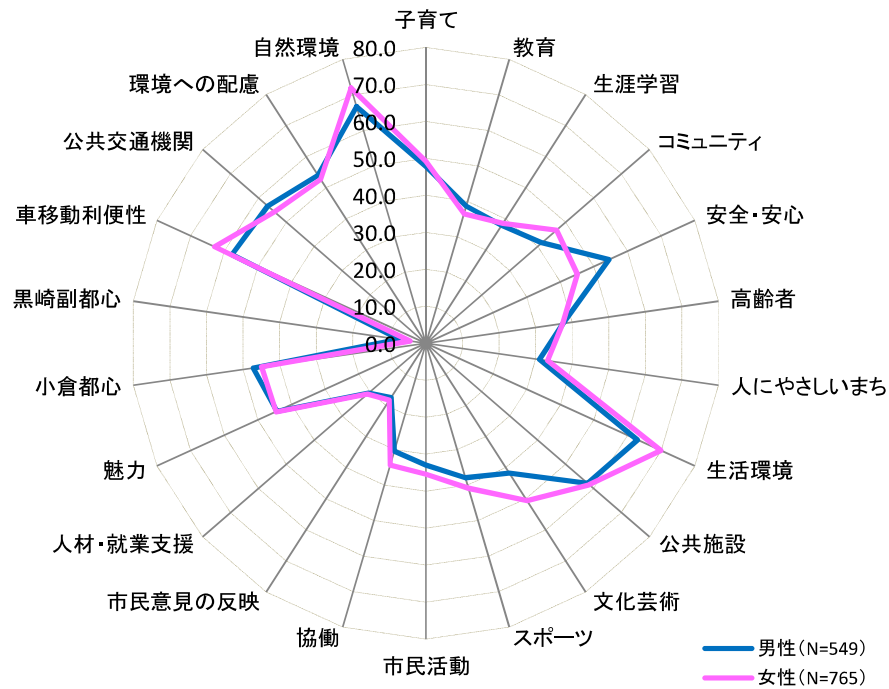
年齢別では、10・20歳代及び30歳代という年齢の低い層で評価の厳しい分野が多く、70歳以上では総体的に評価は高くなっている。

居住区別では、例えば「公共交通機関」、門司区や小倉北区は評価が高いが、若松区や八幡西区では厳しいなど、地区の特徴が表れている。

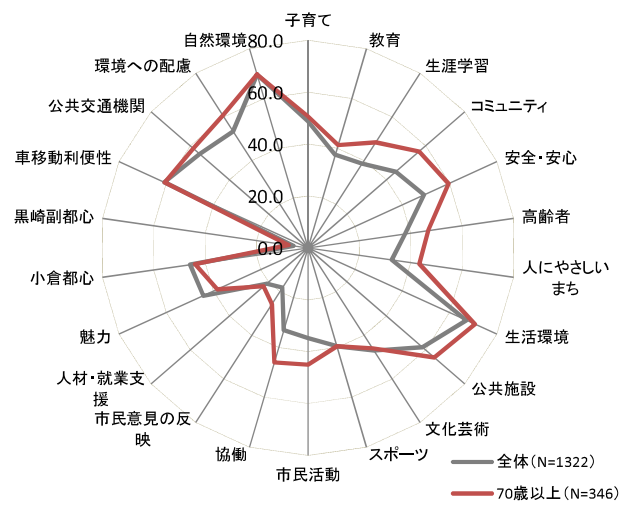
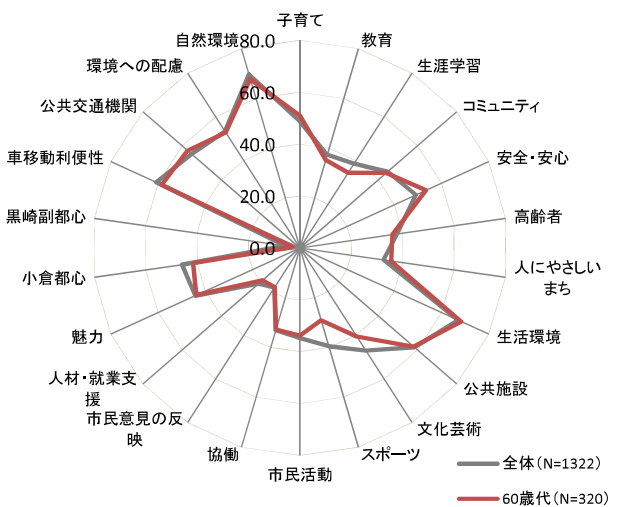
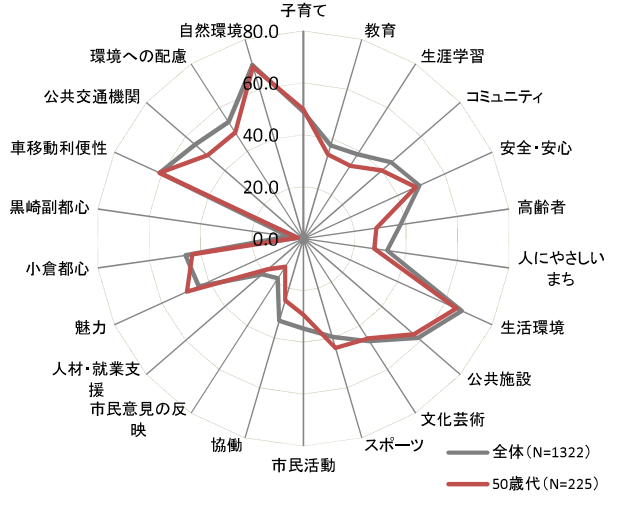
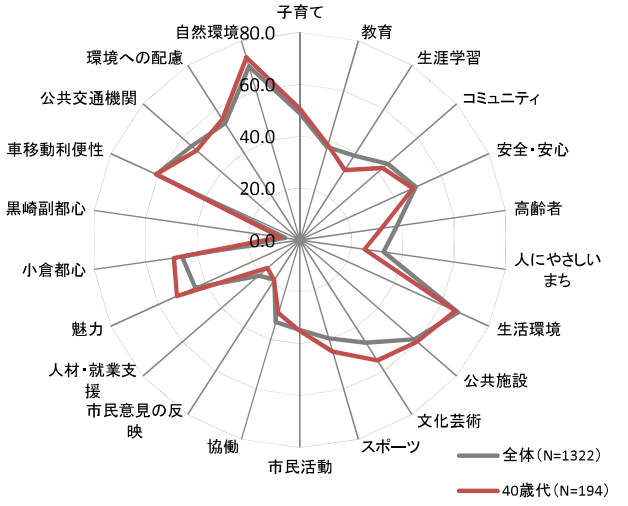
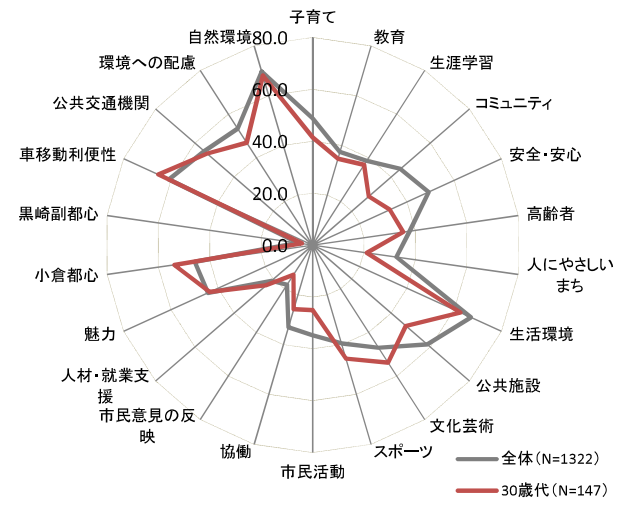
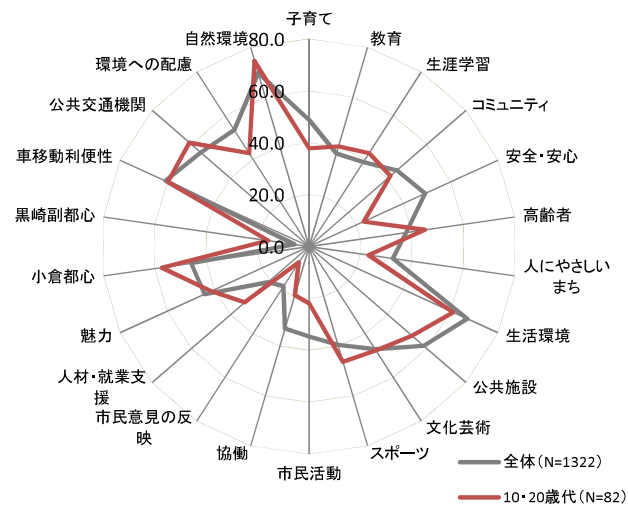
■ 全体でみた肯定層の割合 ■



■ 性別にみた肯定層の割合 ■



■ 年齢別にみた肯定層の割合 ■





## ■ 居住区別にみた肯定層の割合 ■

